



学生ホールを鮮やかに彩った、学生制作のカラフルな吹き流し。6日午後、八戸市の八戸学院大短期大学部

## 吹き流し 学内彩る 八学短大部

### きょう七夕

きょう7日は七夕。八戸市の八戸学院大学短期大学部（杉山幸子学長）では前日の6日から、幼児保育学科の1年生94人が制作した色とりどりの吹き流しを学生ホールに飾り、昼食で訪れた学生らが七夕の雰囲気を楽しんだ。

同校は、毎年7月に市内で開かれる「八戸七夕まつり」と前夜祭を彩る「八戸小唄流し踊り」（東奥日報社主催）に参加し、2015年からは学生が制作した大型吹き流し4本を会場に

展示してきた。

しかし、新型コロナウイルス禍を受け、催しは20年から3年連続の中止に。それでも学生たちは制作技術を継承しようと、同年から小型の吹き流し作りを手がけている。

今年も、1年生3人が1組となり、全長約2層の吹き流し計34本を完成させた。

青が基調の鮮やかな1本を手がけた橋場美沙希さんは「みんなで協力し作り上げる過程が楽しかった」、中嶋葵さんは「保育士になつたらこの技術を仕事にも生かす」と話した。

展示は8月末まで。7月15日には、敷地内で流し踊りの学内発表会を行うと

（斎藤義隆）